

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 和歌山県立古佐田丘中学校・橋本高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒648-0065

和歌山県橋本市古佐田4-10-1

E-mail postmaster@hashimoto-h.wakayama-c.ed.jp

Website <http://www.hashimoto-h.wakayama-c.ed.jp>

幼児児童生徒数 男子 353名 女子 482名 合計 835名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「国際理解教育」を学校理念として、ESDを持続可能な社会づくりの担い手を育むための教育と捉え、ESDの実践を通して、我が国の文化や伝統などに対する理解を深め、これらを愛する心を育成するとともに、広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化をもった人々とともに生きていくための資質や能力の育成を目標とした。

具体的には、世界遺産学習、国際交流を柱に、①世界遺産や地域の文化財等に関する教育、②国際交流に係わる活動を行った。

①世界遺産や地域の文化財等に関する教育

私たちが住む和歌山県には世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」があり、本校はその一部である高野山のふもとに位置している。弘法大師空海の開いた高野山は1200年を超える歴史を有し、仏教の聖地として、現在も信仰の中心地であるだけでなく、国宝や重要文化財に認定された多くの仏教美術や建築物を保有している。この地域の宝である、世界遺産や文化財を学ぶことにより、歴史や文化、伝統などに対する理解を深め、自分たちの地域に誇りを持ち、そのよさを発信し、地域の発展につなげることを目標に取り組んでいる。

中学校では総合的な学習の時間を利用して、「ふるさと学習」を行っている。1年生は学校

のある橋本市についての学習を深め、グループに分かれて、地域の観光ガイドに説明を受けながら、文化財や歴史的な遺産について学んだ。2年生は、世界遺産マスターのガイドの方とともに、高野山へ続く「町石道」の一部を歩き、自分たちで神社の鳥居の清掃など、文化財の保全活動を行った。3年生では、2年生に引き続き、世界遺産マスターとともに「町石道」を高野山まで歩きながら、空海の偉業について学んだ。そして、学んだことをスライドにまとめて、今年度から実施した台湾への修学旅行で、現地で英語で発表した。

高校では、1年生のロングホームルームの時間を活用して、「ユネスコ LHR」を実施している。世界遺産センターの方の講演を通して、世界遺産全般についての知識を深め、その後グループに分かれて、調べ学習を中心に、地域のよさや課題を発見し、持続可能な地域の発展を目指して、自分たちの考えをポスターにまとめ、ポスターセッションという形で、アイデアを共有した。

②国際交流に係わる活動

本校は中国山東省の姉妹校との交流が10年以上続いている。日本と中国との交流の歴史は古く、歴史や文化、芸術また経済においてもお互いに影響を与えあっている。姉妹校交流は、隔年でお互いの学校を訪問しているが、生徒はホームステイを通して、生活習慣を体験することにより、異文化理解を深めている。今年度は中国から8名の高校生が来校し、歌や踊りのパフォーマンスを披露したり、英語や中国語の授業に参加したり、また、自分たちで作成したスライドでお互いに学校紹介を行ったり、活発な交流活動を行った。日本語のスピーチや英語での学校紹介など語学面において、また積極的な態度に対しても、日本の高校生たちにより刺激となった。

また英語の語学研修と異文化理解を目的として、短期海外研修を実施している。ホームステイや現地の生徒と交流することにより、異なる習慣や文化を持った人々とともに生きていくための資質や能力の向上を目指している。



①-1 高野山町石道ウォーク (中3)



①-2 ポスターセッション (高1)



②-1 短期海外研修 (オーストラリア)



②-2 中国姉妹校との交流 (山東省済南第七中学来校)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

中学校では各学年とも総合的な学習の時間10時間をかけて「ふるさと学習」を実施している。3年間を通して、ふるさとに誇りを持ち、自らが次世代に向けてふるさとのよさを伝える担い手となるよう意識付けをすることを目標としている。フィールドワークを通して、1年次は学習を深め、2年次は学習と保全活動、3年次は学習と英語での発信することを目標としている。

高校では1年生がロングホームルームの時間5時間かけて世界遺産学習を行っている。地域の世界遺産について学習するとともに、地域の活性化についてグループで話し合い、ポスターにまとめて、発表した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

中学校では「ふるさと学習」を総合的な学習の中心に置き、各学年で計画を立てている。またフィールドワーク活動を取り入れ、地域で活躍するガイドや有識者の説明を聞きながら、学習を深めている。今年度は、橋本市経済推進部シティセールス推進課や橋本市観光協会の方にも協力をあおいだ。高校では、人権特活部と1年生の学年団で連携をとりながら、計画を立てている。今後は中学との高校の連携を工夫し、また行政とも連携をとりながら、地域活性化づくりに貢献できるような取り組みを考えていきたい。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

それぞれの活動では、事後学習に新聞、ポスター、パワーポイントにまとめて発表活動を行っている。これらの協同作業を通して、他者の意見を尊重して、自分たちの考えをまとめる力や、発信力やコミュニケーション力を育てるのに効果的であったと思う。今後は、学校内、同じ学年内だけでなく、学校外での発表の形を工夫して、地域との連携を強化したい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

「紀伊山地の霊場と参詣道」に橋本市にある「黒河道」が追加認定された時に、市役所の観光課と協力して、実際に「黒河道」を歩き、生徒によるイラスト入りガイドマップを作成した。マップは市の観光案内所に置いて、観光客に活用してもらっている。このように成果物が実際に役立ち、地域に貢献しているという実感が得られるように、行政とも連携を取りながら、生徒が活躍できる場を考えたい。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ふるさと学習の講演やフィールドワークでは、地域の人材の活用に努めている。今年度は、和歌山県博物館学芸員、和歌山大学地域交流センターの支援員、橋本市経済推進部シティセールス推進課、橋本市観光ガイド、世界遺産マスター、世界遺産センターなど、外部団体や組織の協力をいただいた。NPO や世界的規模で活躍している企業などとの連携も考え、多面的な知識の習得にも努めたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

中学校では今年度より台湾への修学旅行を実施している。現地での交流に、国内外のユネスコスクールとの交流の可能性を探りたい。また、短期海外語学研修においても、現地のユネスコスクールとの交流を検討していきたい。また

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

中学校のふるさと学習では3年間を通して、ふるさとに誇りを持ち、自らが次世代に向けてふるさとのよさを伝える担い手となるよう意識付けをすることを目標としている。総合的な学習の時間に系統立てて学習しており、事後学習として、新聞やポスター、パワーポイントにまとめ、発表することにより、自らの考えを発表したり、他者の意見を尊重し、お互い学びあう姿勢を養うのに効果的であった。高校のユネスコLHRでは、講演で世界遺産についての知識を身につけたあと、持続可能な地域づくりのために、自分であるいは協働して、問題を発見し解決を図っていく力を養うのに効果的であった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

中学校では今年度に引き続き、各学年とも「ふるさと学習」を総合的な学習の時間の中心として取り組む予定である。1年生は、学校の周りの歴史について学習し、2年生は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部である高野山へ続く「町石道」を歩き、歴史を学ぶとともに、清掃などの保全活動も行う。3年生は2年生で歩いた「町石道」の後半部分の高野山金剛峰寺に続く「町石道」を歩き、開創者空海の偉業について学ぶ。事後学習として、新聞、ポスター、スライドにまとめて、発表を行う。3年生は台湾修学旅行で現地の中学生に、取り組みについて英語で紹介する。

高校では1年生がロングホームルームの時間に世界遺産学習を行う。平成30年度は世界遺産学習とともに地域活性化の実践例を紹介してもらい、自分たちの町の活性化を考えるヒントとしたい。またポスターセッションによる発表では、地域の団体や住民との交流も考えたい。

また今年度の短期派遣事業である中国姉妹校訪問と短期海外研修で、日本の文化歴史についての紹介や世界遺産高野山について、研修先で英語で発表できるように事前学習する。また研修中は、できれば現地の世界遺産を見学し、比較できればなおよいと考える。

国内外のユネスコスクールとの交流や、ネットワーク形成に向けて検討していきたい。